仕事の引継ぎを支援する 作業履歴保存方式の提案

岡田 卓也 岡山大学 工学部 情報工学科 平成26年2月14日

研究背景

く仕事の引継ぎ>

- (1) 前任者が中断した作業を再開
- (2) 引継ぎ資料や成果物から作業内容を把握

<仕事の引継ぎにおける要求>

- (1) 特定時刻の作業状況の把握 前任者が中断した状況から作業を再開可能
- (2) 重要な成果物の把握 すべての成果物の閲覧不要

<Desktop Bookmark(DTB)>

- (1) 計算機上での作業の中断・再開を支援
- (2) 履歴情報を作業単位で集約し保存
- (3) 保存した情報から一定期間の作業状況を復元

DTBを利用して仕事の引継ぎを支援

DTBを利用した仕事の引継ぎ

<DTBが扱うモデル>

UnifiedHistory:共通するデータ形式で履歴情報を統一

データの位置(計算機内のパス, URL)

Duration : 時間帯を表現

作業の開始時刻と作業の終了時刻の組

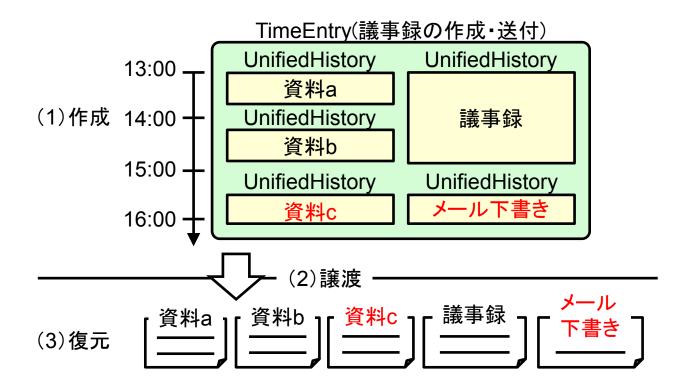
TimeEntry : 作業の途中状態を表現

UnifiedHistoryの集合とDurationの組

<DTBが扱うモデルを利用した仕事の引継ぎ>

- (1) TimeEntryを時系列で並べることで仕事の進め方を把握
- (2) TimeEntryから作業状況を復元することで進捗状況を把握
- (3) UnifiedHistoryから成果物や参照した資料に関する情報を把握
 - → TimeEntryを引き継ぐことにより仕事を引き継ぎ可能

特定時刻の作業状況を把握できない

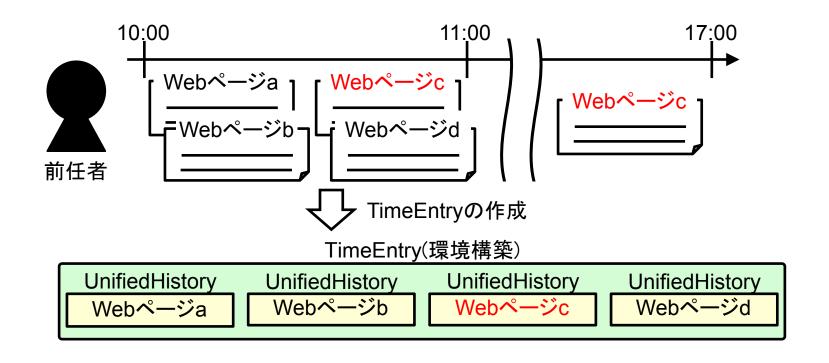


TimeEntry復元時にすべてのUnifiedHistoryを復元

➡「資料c」や「メール下書き」が中断時に参照されたと把握不可

(対処) ファイルが参照された時間帯を追加 中断時に参照された「資料c」や「メール下書き」が把握可能

仕事の中で重要な履歴情報を把握できない



UnifiedHistoryには「Webページc」以外の情報も多い



「Webページc」が前任者が最も参考にしたと把握不可

(対処)参照時間帯の長さを重要さの指標として利用 前任者が最も参考にしたのは「Webページc」と推測可能

仕事の引継ぎを支援する作業履歴保存方式

UnifiedHistoryの要素にDurationを追加

以下の2つが可能になる

- (1) 特定時刻に参照されたファイルやWebページの把握 Durationは参照時間帯を表現
- (2) 重要なUnifiedHistoryの把握
 Durationの表現する参照時間の長さを重要さの指標として利用

まとめ

く実績>

- (1) タイムトラッキングツールとの連携手法の検討
- (2) 作業履歴保存方式の検討
 - (A) UnifiedHistoryの要素にDurationを追加
 - (B) モデル名の再検討
- (3) 作業履歴保存方式を扱うDTBの設計

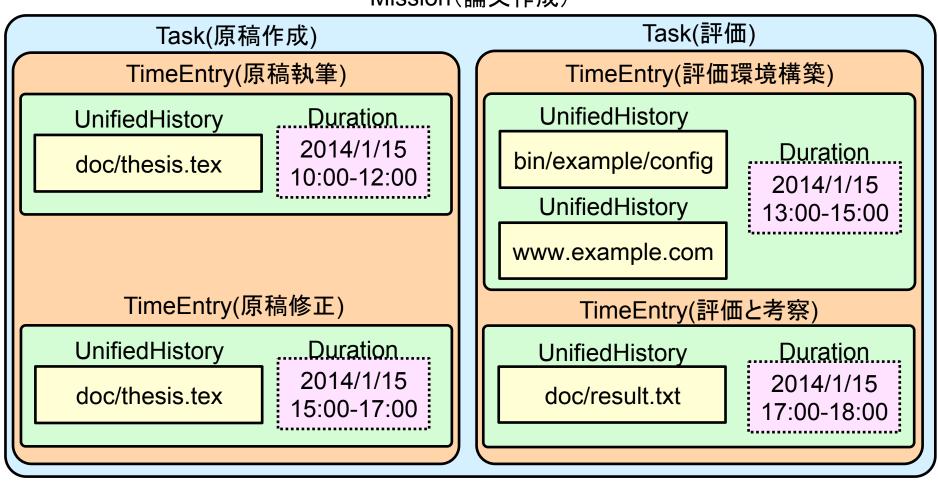
く残された課題>

- (1) 作業履歴保存方式を扱うDTBの実装と評価
- (2) メールの再利用を促進するシステムとの連携
- (3) 作業発生の規則性を扱うカレンダシステムとの連携

予備スライド

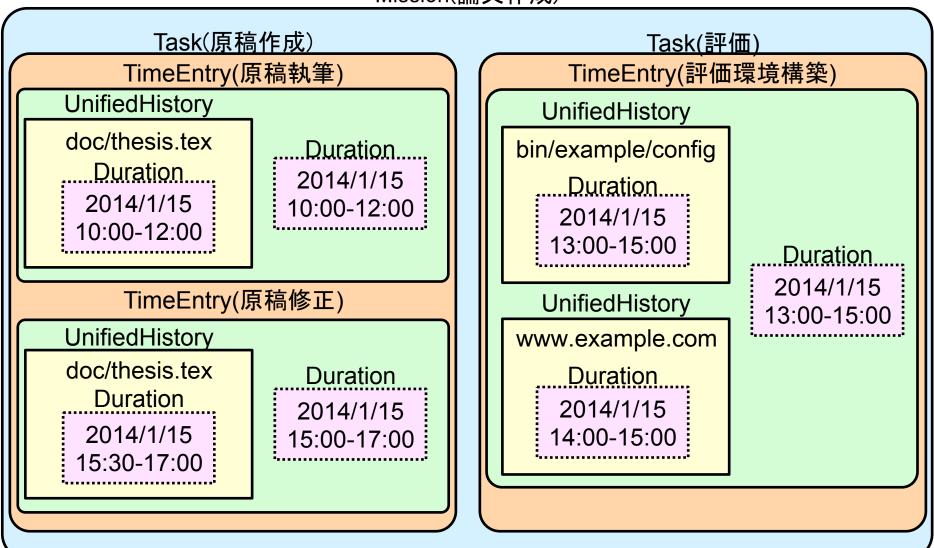
DTBが扱うモデル

Mission(論文作成)

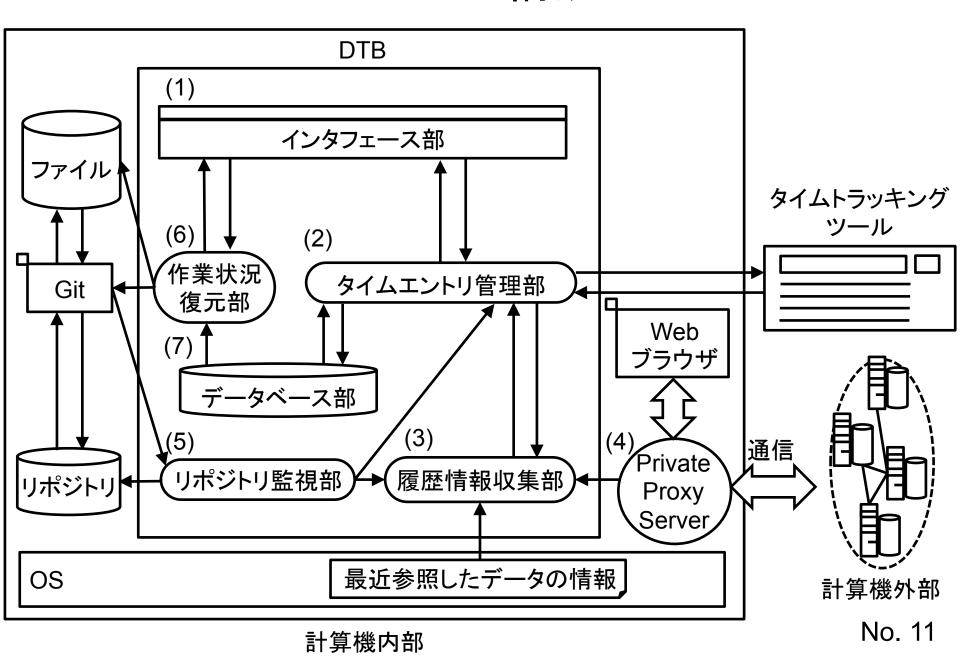


再定義したDTBが扱うモデル

Mission(論文作成)



DTBの構成



データベース部がもつ情報

